

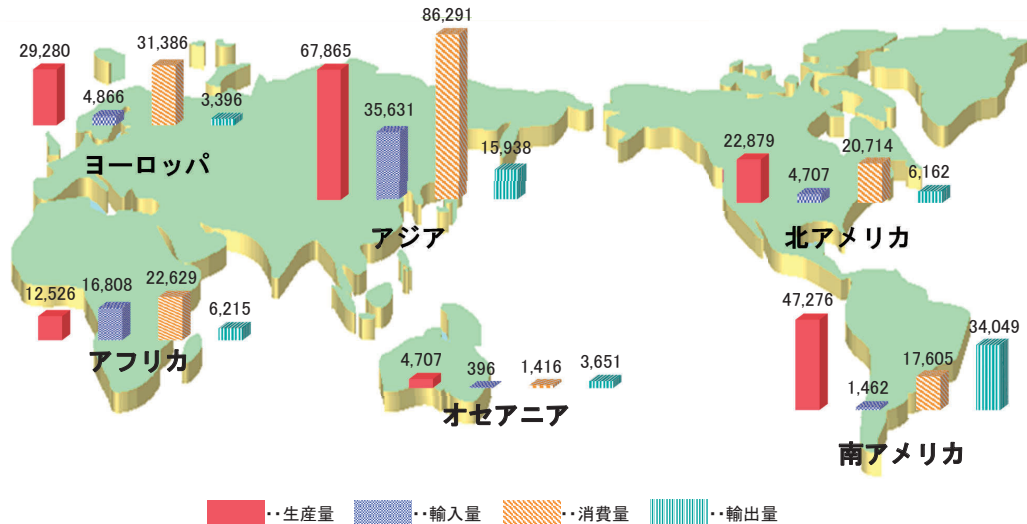
砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇、塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給 (2020年9月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2020/21年度予測値)

(千トン(粗糖換算))



資料：英国の民間調査会社LMC International [Quarterly Statistical Update, September 2020]
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1990/91	31,180	114,134	26,729	106,623	28,254	37,165	34.9
1995/96	44,812	122,392	33,811	116,115	36,615	48,284	41.6
2000/01	64,678	130,768	38,567	131,079	40,945	61,989	47.3
2005/06	57,700	151,186	47,535	150,003	50,013	56,404	37.6
2010/11	50,821	166,769	54,668	165,847	58,206	48,206	29.1
2015/16	73,774	175,955	67,776	178,680	69,077	69,748	39.0
2016/17	69,748	180,387	70,759	181,337	71,288	68,268	37.6
2017/18	68,268	195,704	65,880	180,481	67,716	81,655	45.2
2018/19	81,655	186,749	61,167	183,180	61,746	84,646	46.2
2019/20	84,646	180,721	67,265	177,675	70,186	84,771	47.7
2020/21 (2020年9月予測)	84,771	184,534	63,871	180,040	69,411	83,725	46.5

資料：LMC International [Quarterly Statistical Update, September 2020]
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2018/19年度および2019/20年度の数値は推定値、2020/21年度の数値は予測値。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっているので、次回は2021年1月号の掲載予定となります。直近の内容は2020年10月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002306.html

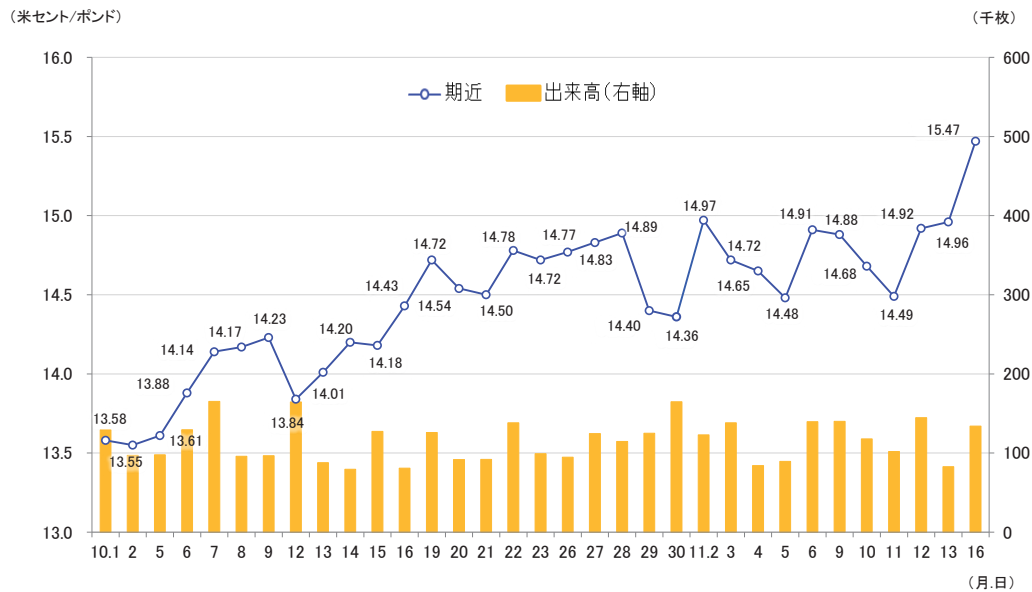
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002307.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（10/1～11/16）

～ブラジルの天候などに左右されるも、上昇傾向で推移～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：期近3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2020年10月の推移を見ると（3月限）、1日は、作付面積の減少などにより、タイでの砂糖生産量が減少するとの懸念から1ポンド当たり13.58セント^{（注1）}の値を付け、7日には、7カ月ぶりの14セント台となる同14.14セントまで値を上げた。さらに、9日はラニーニャ現象^{（注2）}によってブラジルのサトウキビ栽培地域で降雨量が減少し、ブラジルでの砂糖生産量も減少するとの見込みから同14.23セントまで上昇した。12日は、ブラジルの降雨予報を受けて同13.84セントと反落したものの、13日は、原油価格の上昇により、同14.01セントと再び14セント台まで値を戻した^{（注3）}。16日は、ブラジルのサトウキビ栽培地域で、翌週の降雨の可能性が低いとの天気予報を受け、同14.43セントと上昇した。20日は、インド製糖業協会（ISMA）が6月に発表し

た2020/21年度の砂糖生産量予測を引き上げたことを受けて同14.54セントまで下落した。22日は、ブラジルの降雨量が平年よりも少なく、同国の砂糖生産量が減少するとの懸念から、同14.78セントまで上昇し、28日には、同14.89セントと8カ月ぶりの高値を更新した。30日は、エタノール価格を下支えしていた原油価格の下落と、対ドルでのブラジルリアル安により、前日に続いて下落し同14.36セントと2週間ぶりの安値となった^{（注4）}。

11月に入ると、2日は、ブラジル、豪州およびグアテマラが異議を申し立てたインド政府の砂糖輸出業者に対する補助金の合法性について、世界貿易機関（WTO）が11月中に裁定を下す可能性もあった状況の中、インドの製糖工場が政府の輸出支援政策の発表を待って、砂糖の輸出を手控えている^{（注5）}との報道があったことなどから、同14.97セントと

高値を付けた。3日は、ブラジルで降雨の予報があったことから、前日の高値から反落し、同14.72セントまで下落した。6日は、ブラジルリアルが対ドルで上昇したことを受け、砂糖価格は終日上昇し、同14.91セントまで上昇した。10日は、インドの砂糖生産量の増加予測に加えて、ブラジルで降雨の予報があったことから、同14.68セントと下落した。11日は、ブラジルスアウキビ産業協会 (UNICA) が、10月後半のブラジル中南部の砂糖生産量が前年同期からかなり大きく増加し、製糖に仕向けるサウキビの割合が上昇したと公表したことなどをを受けて、同14.49セントと続落した。16日は、EU最大の砂糖生産国であるフランスの農業省が、^{いおう}萎黄病や干ばつの影響を受けて今年度のてん菜収穫量を先月予測から下方修正したことなどから、同15.47セントと急騰した。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて、海面水温が平年より低くなる状態が続く現象。

(注3) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替（補填）燃料であるバイオエタノールの需要も上昇する。バイオエタノールの需要が上昇すると、その原料作物（サウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品（サウキビの場合は砂糖）の生産・供給が減ることが想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注4) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してリアルが安くなると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が強まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

(注5) インド政府の2020/21年度における砂糖の輸出政策の経緯については、『砂糖類・でん粉情報』2020年11月号のインドの項「ISMA、2020/21年度における砂糖の輸出政策の早期発表を首相官邸に要請」（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002327.html）も参照されたい。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2020年11月時点予測）

本稿中の為替レートは2020年10月末日TTS相場の値であり、1米ドル=106円（105.60円）、1インドルピー=1.57円である。

ブラジル

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サウキビ】

収穫面積：873万ha（前年度比0.9%増）

生産量：6億5600万トン（同2.1%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：4394万トン（同38.2%増）

輸出量：3385万トン（同66.6%増）

2020/21年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2020年11月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に

基づく記述）、2020/21年度（4月～翌3月）のサウキビ収穫面積は、原油の国際価格の動きに不安定が見られ、バイオエタノール需要にも不透明感があるものの、バイオ燃料など再生可能エネルギーの生産・利用の促進を図るブラジルの国家政策

「RenovaBio」の本格始動が生産意欲を後押しする可能性があることも踏まえ、873万ヘクタール（前年度比0.9%増）とわずかに増加すると見込まれる（表2）。サトウキビ生産量は、生育期間を通じて天候がおおむね良好で生育が順調であることから、6億5600万トン（同2.1%増）とわずかに増加すると見込まれる。

一方、砂糖生産量は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるバイオエタノール需要の不透明感を背景に、多くの製糖業者が砂糖生産に回帰する動きが見られることから、4394万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同38.2%増）と大幅に増加すると見込まれる。この予測の下、ブラジルレアルが米ドルに対して安値圏で推移することで輸出意欲が向上し、輸出量は3385万トン（同66.6%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖価格の上昇を背景に、中南部の2021/22年度エタノール生産量は減少する見込み

現地の調査会社によると、7月から9月にかけての極度な乾燥気候など、この数カ月間、国内のほとんどの地域で例年と比較して降雨が少ない状況が続ぎ、2021/22年度（来年度）産のサトウキビの作付時期に遅れが生じ、一部で生育に支障をきたしている。サトウキビの生育期間の確保のために、収穫期を遅らせるなどの対策を講じるものの、これにより来年度は、サトウキビの収穫量と砂糖生産量が今年度よりやや減少すると予測されている。

同社は、サンパウロ州などの同国中南部地域におけるサトウキビ収穫量は、2020/21年度（今年度）の5億9600万トンに対し、来年度は5億7500万トンに減少するとし、また、同地域の製糖工場の砂糖生産量は今年度の3800万トンに対し、来年度は3600万トンに減少すると予測している。

しかし、砂糖価格の指標となるニューヨーク先物

相場が9月中旬以降急回復したこととブラジルレアル安を背景とした輸出の増加により、同国内の砂糖価格も記録的な高水準にあり、砂糖生産量が減少しても良好な利益率が期待できることから、製糖工場の来年度の収益は十分確保できるとみられている。

また、砂糖価格が高水準であり、製糖工場がバイオエタノールよりも砂糖を優先して生産を続けると見込まれることから、ブラジルでは今年度に引き続き、来年度もエタノール生産量が減少すると見込まれており、中南部地域における来年度のエタノール生産量は、前年度比2.4%減の2885万キロリットル（トウモロコシ由来のエタノールを含む）になると予測されている。

10月の砂糖輸出量、過去最多を記録

ブラジル農務省（MAPA）は11月12日、10月の砂糖輸出量が過去最多の420万トン（前年同月比2.2倍）を記録したと発表した。同月の砂糖輸出額も、前年同月比2.2倍の12億ドル（1272億円）と大幅に増加した。最も輸出量が多かった輸出先国は中国で、3億1174万ドル（330億4444万円）と全体の輸出額の約4分の1を占めた。その他の主な輸出先はインド（輸出額1億782万ドル〈114億2892万円〉）、バングラデシュ（同8507万ドル〈90億1742万円〉）、米国（同6195万ドル〈65億6670万円〉）であった。業界関係者によると、ブラジルの砂糖生産量の増加、輸出競合国からの砂糖供給量の減少や、ブラジルレアルが米ドルに対して安値で推移し、ブラジル産糖の価格競争力が高まっていることが砂糖の輸出量を押し上げる要因になっている。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

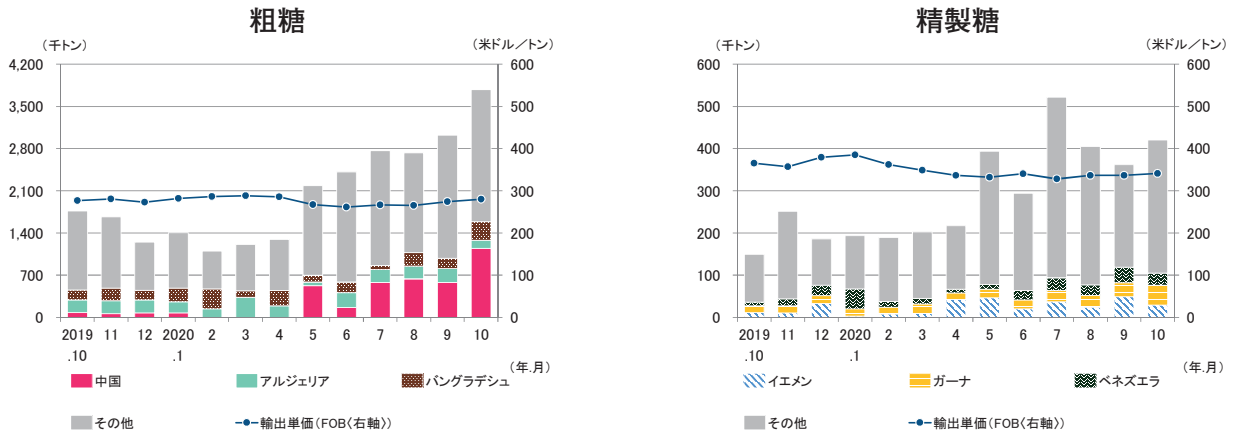
(単位：千ha、千トン)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (10月予測)	2020/21 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,617	8,649	8,653	8,642	8,726	0.9%	
サトウキビ生産量	641,066	620,832	642,219	656,000	656,000	2.1%	
砂糖	生産量	41,517	31,225	31,804	43,585	43,944	38.2%
	輸入量	2	3	2	3	3	28.5%
	消費量	10,852	10,635	10,612	10,521	10,521	▲0.9%
	輸出量	31,026	21,017	20,321	33,709	33,854	66.6%
	期末在庫量	663	239	1,112	470	685	▲38.4%
	期末在庫率	1.6	0.8	3.6	1.1	1.5	2.1ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

インド

2020/21年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：473万ha(前年度比6.5%増)

生産量：3億9912万トン(同15.2%増)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量：3397万トン(同15.4%増)

輸出量：693万トン(同11.4%減)

2020/21年度、砂糖生産量はかなり大きく増加し、輸出量はかなり大きく減少する見込み

2020/21年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、豪雨による大規模な圃場の浸水被害に見舞われた昨年度からの反動で、473万ヘクタール(前年度比6.5%増)とかなりの程度増加すると見込まれる(表3)。サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州では、年間降雨量が集中するモン

スーン期(6～9月)における降雨が順調であることから、ダム水位回復により、サトウキビ生産量は3億9912万トン(同15.2%増)とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は3397万トン(同15.4%増)とかなり大きく増加すると見込まれる。今年度はコロナ禍における厳しい財政状況を理由に砂糖の輸出政策の発表が遅れており、国内の製糖業者は粗糖の輸出

契約の締結が難しい状況にある中、精製糖業者は粗糖輸入量を増やしており、輸出向け精製糖の増産が予想されることから、輸出量は693万トン（同11.4%減）とかなり大きく減少すると見込まれるものの、前月予測から上方修正された。

内閣経済対策委員会、サトウキビの搾汁や糖みつ由来のエタノール買い取り価格を引き上げ

インドの政策決定機関である内閣経済対策委員会（CCEA：首相が議長を務める）は10月29日、2020/21エタノール年度（12月～翌11月）における、公営石油販売会社（OMC）が、サトウキビの搾汁や糖みつなどから生産したエタノールを製糖業者などから買い取る際の価格を発表した。サトウキビの搾汁（砂糖やシロップを含む）由来のエタノールについては、現行1リットル当たり59.48ルピー（93円）から62.65ルピー（98円）へ、Bモラセス^{（注）}由来のエタノールについては同54.27ルピー（85円）から57.61ルピー（90円）へ、Cモラセス由来のエタノールについては43.75ルピー（69円）から45.69ルピー（72円）にそれぞれ引き上

げられた。また、同年度から、エタノールにかかる物品サービス税（GST）や輸送費を、OMCが負担するようになった。CCEAは、今回のエタノールの買い取り価格の引き上げなどにより、製糖業者の経営状態の改善が期待されるとともに、農家へのサトウキビ代支払いの遅延改善にも効果があるだろうとしている。

同国では2014年からエタノールの買い取り価格の設定を開始しており、2019/20年度にOMCが買入れたエタノールの量は、2013/14年度の5.1倍に相当する約195万キロリットルとなった。

（注）砂糖の製造工程では、搾汁を煮詰めて結晶化させる。これを遠心分離機で脱水し、砂糖の結晶と糖みつを分離する。このとき得られた糖みつをAモラセスと呼び、Aモラセスにはまだ砂糖が含まれているので再度煮詰め、脱水する作業を繰り返す。このとき脱水して取り出した糖みつをBモラセス、Bモラセスを煮詰めて脱水し、取り出した糖みつをCモラセスと呼ぶ。こうした工程により、各モラセスに含まれる砂糖の量はA>B>Cの順に多く、搾汁のうち回収可能な砂糖はAモラセスに約23%、Bモラセスに約10%がそれぞれ残留している。

表3 インドの砂糖需給の推移

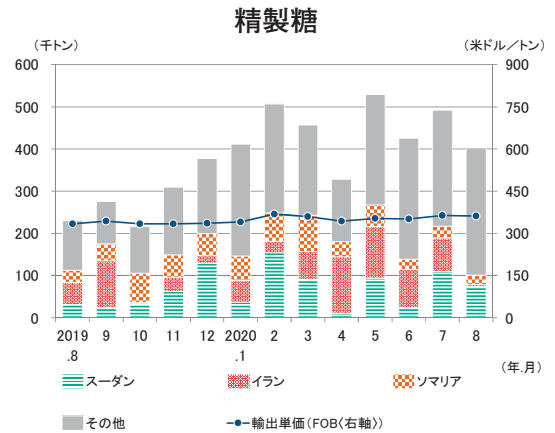
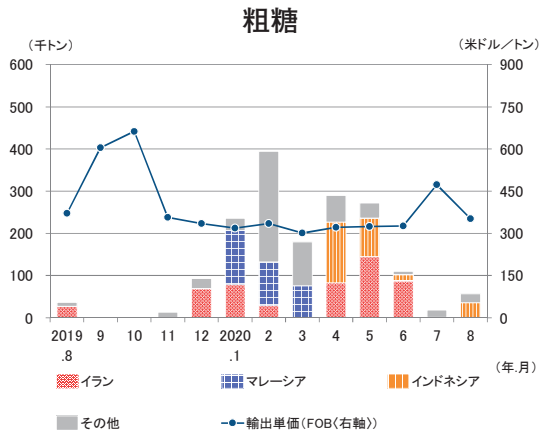
（単位：千ha、千トン）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (10月予測)	2020/21 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,794	4,960	4,441	4,768	4,731	6.5%	
サトウキビ生産量	404,399	404,528	346,431	400,931	399,119	15.2%	
砂糖	生産量	35,043	35,798	29,437	33,965	33,965	15.4%
	輸入量	2,308	664	1,686	1,500	1,728	2.5%
	消費量	27,421	27,540	27,007	28,322	28,322	4.9%
	輸出量	2,361	5,504	7,828	6,264	6,934	▲11.4%
	期末在庫量	11,522	14,940	11,229	12,223	11,667	3.9%
	期末在庫率	38.7	45.2	32.2	35.3	33.1	0.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

中国

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：119万ha（前年度比1.0%増）

生産量：7520万トン（同1.0%増）

【てん菜】

収穫面積：23万ha（同7.8%増）

生産量：1145万トン（同5.1%増）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1142万トン（同1.4%増）

輸入量：667万トン（同1.6%増）

2020/21年度、輸入量はわずかに増加する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は119万ヘクタール（前年度比1.0%増）とわずかに増加すると見込まれる（表4）。また、ここ数カ月、サトウキビの主産地である広西チワン族自治区と雲南省の降雨量が多く、12月の収穫に向けてサトウキビが順調に生育するとの予想から、サトウキビ生産量は7520万トン（同1.0%増）とわずかに増加すると見込まれる。

また、同年度のてん菜の収穫面積は、内モンゴル自治区において、てん菜の買い取り価格が引き上げられたことから、生産者が作付面積を拡大し、収穫面積は23万ヘクタール（同7.8%増）とかなりの程度増加し、てん菜生産量は1145万トン（同5.1%増）とやや増加すると見込まれる。

これら原料の増産に伴い、砂糖生産量は1142万トン（同1.4%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸入量は、ブラジルからの輸入が10月に入っても増加基調で持続していることを踏まえて前月予測から上方修正され、667万トン（同1.6%増）とわずかに増加すると見込まれる。

中国政府、砂糖を含む7品目を豪州から輸入禁止か

香港の現地報道は11月3日、中国政府が砂糖を含む豪州産7品目を11月6日から輸入禁止対象とする旨を輸入業者に通達した、と関係者の話として報じた。これに対し中国当局は、政府は輸入を強制的に禁止しておらず、輸入業者独自の対応であると否定したものの、豪州の関連業界に波紋が広がっている。豪州のサイモン・バーミンガム豪州貿易観光

投資大臣によると、一部の品目については6日以降も中国の税関を通過しているという。同大臣は、輸入が一律に禁止されているという噂が広まっている状況を注視していきたいとし、中国当局が自らの言葉に忠実であることを望むと述べた。豪州と中国との外交関係は、豪州が2020年4月に新型コロナウイルスの発生源に関する国際的調査を求めたことを

きっかけに急速に悪化しており、すでに大麦やワイン、石炭で、輸入制限や高関税措置が取られている。

2019/20年度（10月～翌9月）に中国が豪州から輸入した粗糖（HSコード：170114）は9万1360トン、精製糖（HSコード：170199）は1860トンであった。

表4 中国の砂糖需給の推移

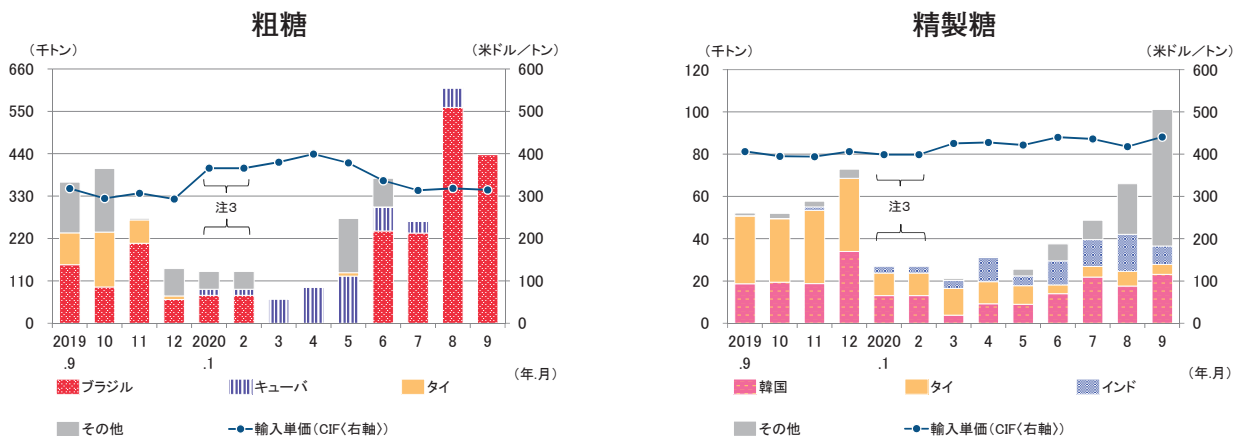
(単位：千ha、千トン)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (10月予測)	2020/21 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,231	1,219	1,176	1,183	1,188	1.0%	
サトウキビ生産量	76,780	78,590	74,490	74,800	75,200	1.0%	
てん菜収穫面積	186	243	213	229	229	7.8%	
てん菜生産量	9,590	11,670	10,900	11,451	11,451	5.1%	
砂糖	生産量	11,147	11,640	11,259	11,355	11,420	1.4%
	輸入量	6,033	5,053	6,561	5,724	6,667	1.6%
	消費量	16,414	16,522	16,012	16,466	16,466	2.8%
	輸出量	182	210	201	218	205	2.2%
	期末在庫量	11,273	11,233	12,841	13,065	14,257	11.0%
	期末在庫率	67.9	67.1	79.2	78.3	85.5	6.3ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

注3：2020年1、2月の数値は、中国海関総署（日本の税関に相当する組織）が公表した1～2月の合計値を等分した。

E U

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：148万ha（前年度比2.5%減）
生産量：9892万トン（同9.1%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1619万トン（同4.7%減）
輸出量：140万トン（同26.1%減）

2020/21年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は148万ヘクタール（前年度比2.5%減）とわずかに減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、7月の干ばつに加えて9月後半から10月の降雨が日照不足をもたらしたことで、9892万トン（同9.1%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

EU最大の砂糖生産国であるフランスで特に流行している萎黄病のほか、天候不順やカビが原因の褐斑病の発生によっても根中糖分が低下し、砂糖生産量は1619万トン（同4.7%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は砂糖の減産に伴い、140万トン（同26.1%減）と大幅に減少すると見込まれる。

フランス上院、ネオニコチノイド系農薬の緊急使用を認める法案を可決

現地報道によると、フランス元老院（上院）は11月4日、てん菜種子のコーティングにネオニコチノイド系農薬を使用することを2021年から最大2023年まで許可する法案を可決した。同国では

2018年以降、その散布がミツバチなどの生態系に影響を及ぼすとして、同農薬の使用が禁止されている^(注)が、アブラムシによって媒介されるウイルス性の病害である萎黄病が全国的に流行していることを受けて、生産者団体は同農薬の緊急使用を許可するよう政府に要請していた。

しかし、11月10日に70人以上の議員が同法案の合憲性の審査を憲法評議会に付託したことで、12月15日に同法案が公布されるかどうか不透明な状況となっている。議員らは同法案について、①同国で数年前から確認されている、同農薬の使用による鳥類や昆虫に見られた生体数の減少について説明がないこと②健康や環境に関する憲法よりも企業活動の自由を不当に優遇していること③生態系に大規模かつ不可逆的な汚染を決定づけており、憲法で規定された環境保護の義務に反していること—などを指摘している。

(注) 同農薬の使用をめぐる経緯については、『砂糖類・でん粉情報』2020年9月号のEU・英国の項「フランス、ネオニコチノイド系農薬の緊急使用を認める方向」(https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002293.html)を参照されたい。

表5 EUの砂糖需給の推移

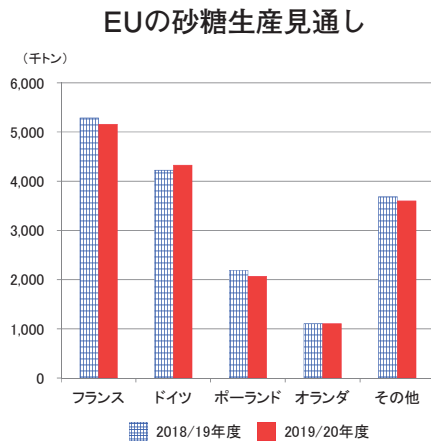
(単位：千ha、千トン)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (10月予測)	2020/21 (11月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,624	1,599	1,517	1,477	1,480	▲ 2.5
てん菜生産量	130,930	104,402	108,815	102,447	98,920	▲ 9.1
砂糖	生産量	20,353	17,116	16,985	16,455	▲ 4.7
	輸入量	1,566	2,349	2,346	2,386	▲ 5.7
	消費量	17,332	17,446	16,920	17,087	0.7
	輸出量	4,270	2,391	1,887	1,950	▲ 26.1
	期末在庫量	1,095	724	1,248	1,733	▲ 2.8
	期末在庫率	5.1	3.6	6.6	9.1	6.6

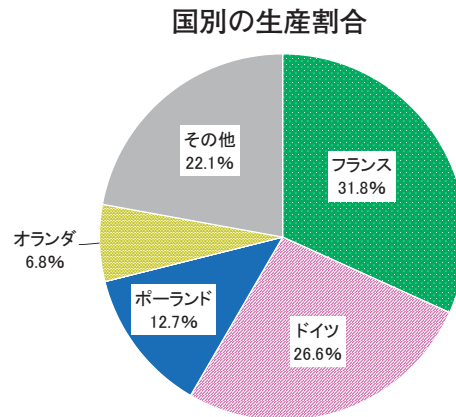
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2020年9月時点)



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2019/20年度は予測値。



資料：欧州委員会
注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2020年11月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピンで、2019年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が81.4%（前年比10.2ポイント増）、タイが18.6%（同9.5ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

以上により、この2カ国の動向については毎月報告し、フィリピンおよび南アフリカの動向についてはそれぞれ半年に1回の頻度で報告する（フィリピンは4月号および9月号、南アフリカは10月号および3月号を予定）。

本稿中の為替レートは2020年10月末日TTS相場の値であり、1豪ドル=76円（75.57円）である。

豪州

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.0%減）

生産量：3092万トン（同2.9%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：434万トン（同1.3%増）

輸出量：336万トン（同9.3%減）

2020/21年度、砂糖生産量はわずかに増加する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、記録的な干ばつに見舞われた2019年ほど極端な天候にはならないとの前提の下、

3092万トン（同2.9%増）とわずかに増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前年度の減産からの反動が押し上げ要因となり、434万トン（同1.3%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸出が消費量の落ち込みをある程度補うと予測されるものの、輸出量は336万トン（同9.3%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

クイーンズランド州の州営かんがい用水の利用料金を15%引き下げへ

クイーンズランド州で10月31日に行われた州議会選挙で、同州のかんがい用水の利用料金を引き下げる公約を掲げた現政権の労働党が勝利した。

同州には35カ所の州営かんがい設備があり、同党の公約が実現すれば、かんがい用水の利用料金は、現行から15%引き下げられることになる。

現地報道によると、再選された同党のアナスタシア・パラシェ首相は、かんがい用水の利用料金を一律15%引き下げることに加え、果物や野菜の生産者に対しては最大50%まで引き下げ、用水を安価

に提供することで、労働集約型の園芸部門の雇用を促進すると発表した。

これに対し、同州のサトウキビ生産者が組織するCANE GROWERSのダン・ギャリガンCEOは、同党の15%引き下げの公約を歓迎し、この政策により、サトウキビ生産者は年間1万5000豪ドル(114万円)のコストを削減できる可能性があると発表した。一方で、同CEOは、サトウキビと野菜の両方を栽培している農家は、同じ設備を使って用水を汲み上げているのに、利用料金が畑ごとに異なるのは前代未聞であるとして、利用料金の引き下げが二段階に分かれていることに疑問を呈した。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (10月予測)	2020/21 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	376	379	364	361	361	▲1.0%	
サトウキビ生産量	33,344	32,493	30,044	30,905	30,921	2.9%	
砂糖	生産量	4,463	4,717	4,283	4,337	4,340	1.3%
	輸入量	27	18	20	58	58	2.9倍
	消費量	1,019	1,050	1,052	1,036	1,036	▲1.6%
	輸出量	3,590	3,562	3,706	3,362	3,362	▲9.3%
	期末在庫量	849	972	517	514	517	▲0.1%
	期末在庫率	18.4	21.1	10.9	11.7	11.7	0.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：139万ha（前年度比14.4%減）

生産量：6750万トン（同9.9%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：794万トン（同9.8%減）

輸出量：508万トン（同37.7%減）

2020/21年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、今期作の作付け時点で、キャッサバなどのサトウキビとの代替性のある作物の収益性がサトウキビよりも高かったことから、代替作物がより多く作付けされたことにより139万ヘクタール（前年度比14.4%減）とかなり大きく減少すると見込

まれる（表7）。干ばつの影響を受けて、サトウキビ生産量は6750万トン（同9.9%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は794万トン（同9.8%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。砂糖の減産や在庫量の減少に伴い輸出余力が低下し、輸出量は508万トン（同37.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。

製糖大手、バガスを原料としたストローの販売を開始

現地報道によると、タイの製糖大手カセート・タイ・インターナショナル社（KTIS）^{（注1）}は、10月14日、2020/21年度からバガス^{（注2）}を原料としたストローの販売を開始すると発表した。バガスを原料としたストローの販売は同国初であり、同年度は3000万本の売り上げを目指している。ストローの製造はKTISの子会社が担当し、生産能力は1日当たり50万本であるが、需要に応じ増産を検討するとしている。同社によると、バガスを原料としたストローは一般的な紙ストローに比べて耐水性が高く、化学物質の残留もないため、消費者が安心して使用できる製品となっている。また、同社の製糖工

程で発生したバガスをストロー生産に利用するため、紙ストローの製造と比較して木材の伐採量の削減に寄与でき、環境にも優しいという。

タイ政府は2019年、プラスチックごみの削減を目的としたロードマップを策定しており、プラスチック製ストローについては、2022年末までに使用を中止するとしている。

（注1）2016/17年度の製糖能力に基づくタイの製糖会社のランキングによれば、同社は868万トンでミトポングループ（1747万トン）、タイ・ルン・ルアングループ（1481万トン）に次ぐ第3位となっている。

（注2）サトウキビを圧搾した際に発生する繊維質の搾りかす。

表7 タイの砂糖需給の推移

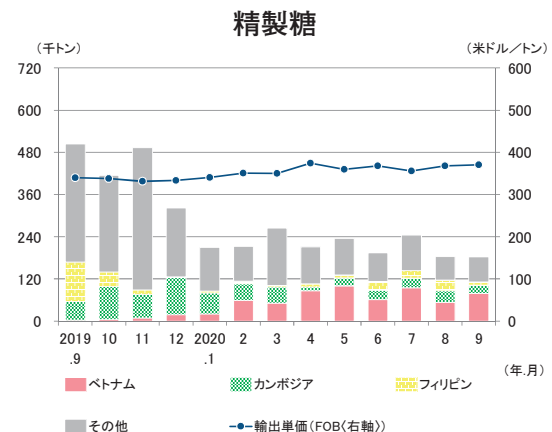
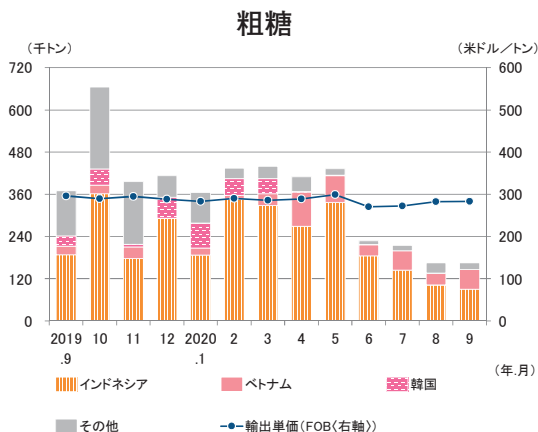
（単位：千ha、千トン）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (10月予測)	2020/21 (11月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,790	1,913	1,626	1,392	1,392	▲ 14.4%
サトウキビ生産量	134,929	130,970	74,893	67,500	67,500	▲ 9.9%
砂糖	生産量	15,586	15,457	8,807	7,940	▲ 9.8%
	輸入量	5	3	33	14	▲ 57.6%
	消費量	3,434	3,737	3,557	3,646	2.5%
	輸出量	9,820	10,113	8,162	4,808	▲ 37.7%
	期末在庫量	6,289	7,899	5,020	4,598	▲ 15.4%
	期末在庫率	47.4	57.0	42.8	54.4	48.6

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考） タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。